

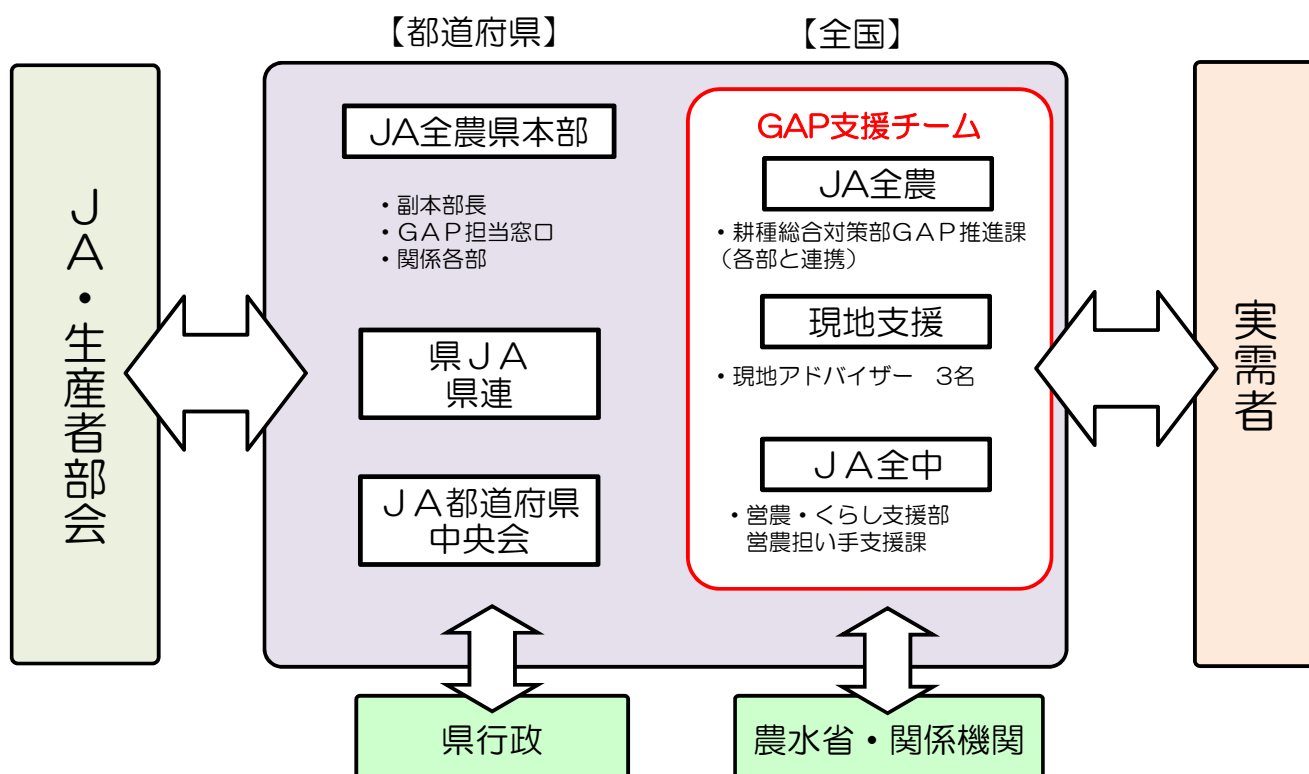
JAグループGAP支援チームの 取り組みについて

2019年9月
全国農業協同組合中央会
営農・暮らし支援部 営農担い手支援課
(JAグループGAP支援チーム)
城向 孝洋

Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム



JAグループGAP推進体制

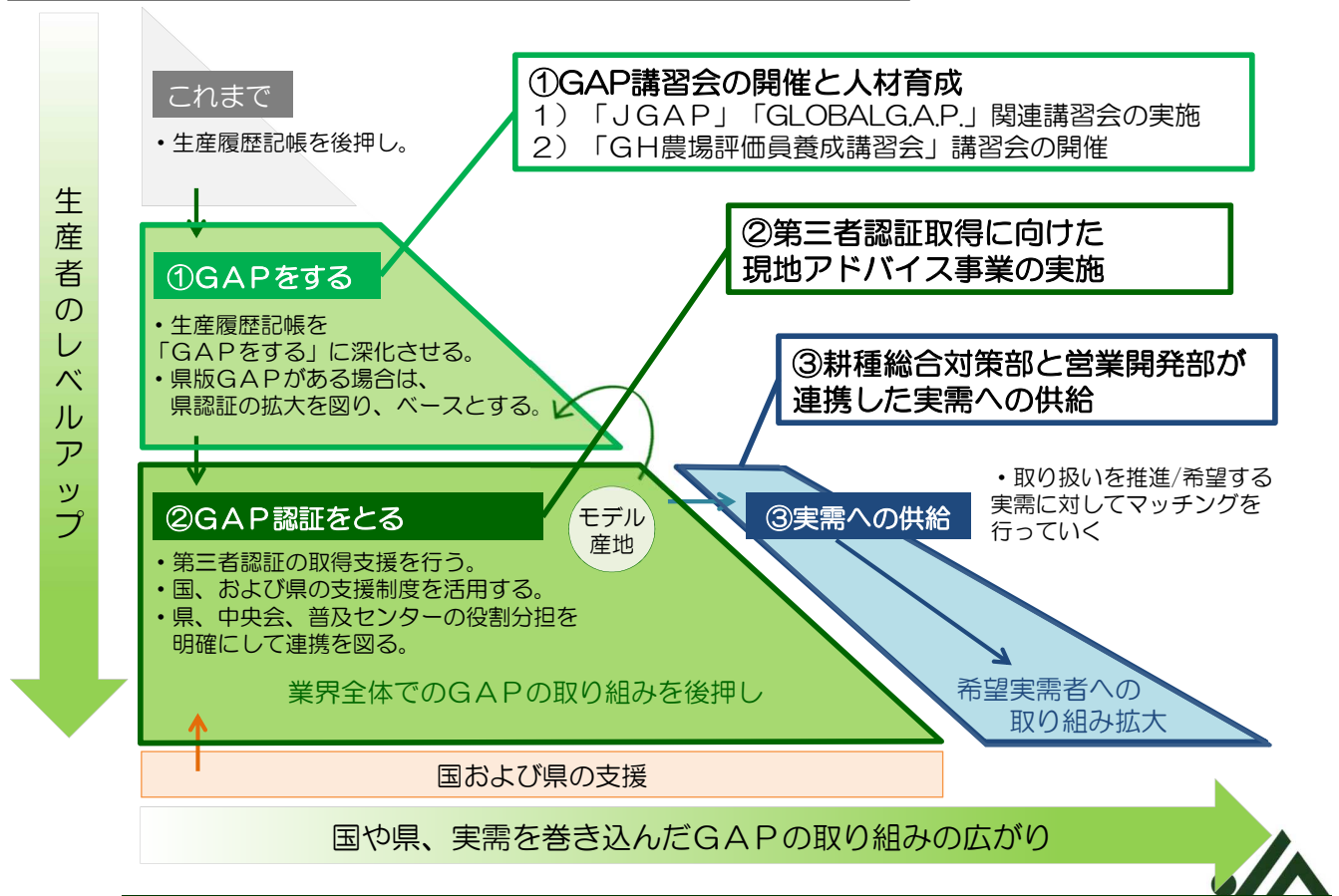


全国4連で協力し、JAグループ全体で連携して推進しています。

Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム



JAグループのGAPの方針と取り組み概要



Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム

①. GAP講習会の開催と人材育成

(1) 「JGAP」「GLOBALG.A.P.」関連講習会

- 平成30年度上期は、計4回開催し、66名を養成した。
- 平成29年度からの累計は235名の養成実績になっている。

講習会名	概要	H29年度		H30年度		R元年6月時点	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
JGAP指導員基礎研修	JGAPに関する知識習得(資格取得講習)	3回	65名	2回	38名	1回	17名
JGAP内部監査員研修	JGAP団体認証に関する知識習得(資格認定講習)	2回	46名	2回	37名	1回	30名
GLOBALG.A.P.基礎講習	GLOBALG.A.P.に関する知識習得	3回	57名	3回	59名	2回	17名

(2) GH農場評価員養成講習会(新規講習会)について

- 平成30年度より新規講習会として開始。昨年8月に第1回を実施。

<ポイント>

- 「GAPをする」手法として農場評価の仕組みや生産者農場での評価技術を活用。
- 生産者における問題点を抽出し生産者と問題解決に向け農場の改善を実践できる。
- 実需者の要望等によりGAP認証取得が必要となった際、認証取得に円滑に移行できる。

実施内容	H30年度		R元年6月時点	
	回数	人数	回数	人数
	2回	22名	2回	33名

※GH=Green Harvesterの略
自然環境との調和の中で農業を営み農産物を収穫する人をイメージしたもの



Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム

②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- ・現地アドバイス事業での認証取得に向けた支援活動を積極的に実施。
- ・支援産地の状況[実施：15県22部会14品目（平成29年度～令和元年度6月時点計）]

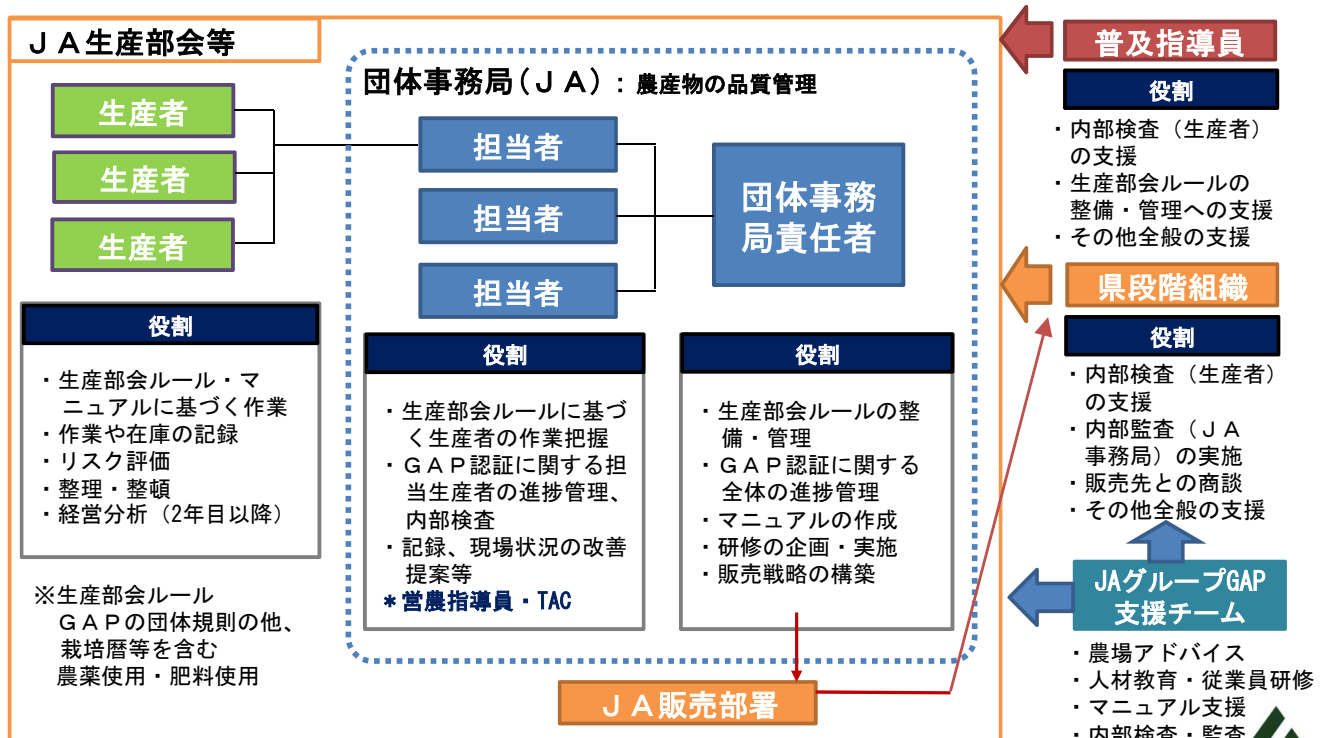
支援産地一覧

No	県名	JA名・県域	品目	取得GAPの種類	認証予定時期
①	北海道	JAようてい	ばれいしょ	JGAP	R元冬
②		JA新しのつ	米	GLOBALG.A.P.	R2冬
③	青森	JA十和田おいらせ	ごぼう	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
④		JA津軽みらい	りんご	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
⑤			米	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
⑥		JAいわて平泉	米	ASIAGAP	H30.10取得済
⑦	岩手	JA新いわて	レタス	GLOBALG.A.P.	R元冬
⑧			プロコリー	GLOBALG.A.P.	R元冬
⑨	宮城	全農宮城県本部	トマト	GLOBALG.A.P.	H30.3取得済
⑩	秋田	JAあきた白神	白ねぎ	JGAP	R2春
⑪	福島	JA会津よつば	トマト	JGAP	R元秋
⑫	群馬	JAにったみどり	レタス	GLOBALG.A.P.	R2夏
⑬	新潟	JA十日町	えのき他	GLOBALG.A.P.	R元.6所得済
⑭		JAみなみ魚沼	しいたけ	GLOBALG.A.P.	R2冬
⑮	富山	JAいみず野	えだまめ	JGAP	H30.9取得済
⑯	石川	JA金沢市	きゅうり	JGAP	R2春
⑰	静岡	JAなんすん	荒茶	JGAP	R2夏
⑱	滋賀	JA草津市	米	JGAP	R元冬
⑲		JA滋賀蒲生町	米	JGAP	R2冬
⑳	兵庫	JAあわじ島	たまねぎ	GLOBALG.A.P.	R2夏
㉑	岡山	全農岡山県本部	キャベツ	GLOBALG.A.P.	R2夏
㉒	広島	JA広島北部	白ねぎ	JGAP	R2夏

Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム

②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- ・団体認証については、団体事務局、生産者、支援部隊のそれぞれの役割分担が重要になる。
- ・JAグループでは以下のようにGAP団体認証取得に関する役割分担と体制を構築している。



Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム

②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- ASIAGAP、JGAPの団体認証として、JAいわて平泉とJAいずみ野がそれぞれ認証を取得。
- 団体での取り組みにより「関係者の回結力ができた」「全体のレベルが底上げされた」などの声も。
- 現在JA全体では **23県53団体** が団体認証を取得している。

団体認証取得事例

岩手県JAいわて平泉ブランド米部会がASIAGAP団体認証 JAグループGAP支援チームや県・JA全農いわて・県中央会の支援で団体認証県内初

岩手県JAいわて平泉ブランド米部会の人々は、10月16日付で県内初のASIAGAP団体認証を取得しました。

今回の認証取得にあたっては、米の新しい種が多くデビューする中、食の安全・安心に力を一層意識した管理を実施し、ひいてはラグビーワールドカップ、東京オリンピック、パラリンピックを契機として、ASIAGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスを進めています。

今回の認証取得した「産米の風」は岩手県産米のブランドであり、JAいわて平泉ブランド部会小野部会長からは、高い品質の米を作り、ブランド力向上に努めていきたいと今後を見据えた決意表明がありました。JAでは地産地消を基本に地元への認知度向上を図り、輸出も視野に入れた国内外へPRしていきたいと、今後の販売に意欲を示しています。

JAグループは平成20年にGAPの取り組み方針を決定し、JA全中、JA全農、JA共済連、農林中央会農で取り組む「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」によりGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスを進めています。



富山県JAいみず野管内のえだまめ生産23経営体がJGAP団体認証 JAグループの支援で県内初の取得

富山県JAいみず野管内のえだまめ生産23経営体は、9月21日付で県内初のJGAP団体認証を取得しました。

JAグループは平成29年にGAPの取り組み方針を決定し、JA全中、JA全農、JA共済連、農林中央会農で取り組む「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」によりGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスを進めています。

JAいみず野では、黒大豆の認証取得に至りました。部会員の多くが集落営農法人であり、構成員同志は気にかけており運営しやすい半面、作業者が多く管理や記録が難しい面もありました。

認証はあくまでも通過点、今後も継続してより良い農場運営を目指します。

JGAP団体認証を受けたえだまめ部会の皆さん

特産のJAいみず野の黒大豆えだまめ「富山ブラック」

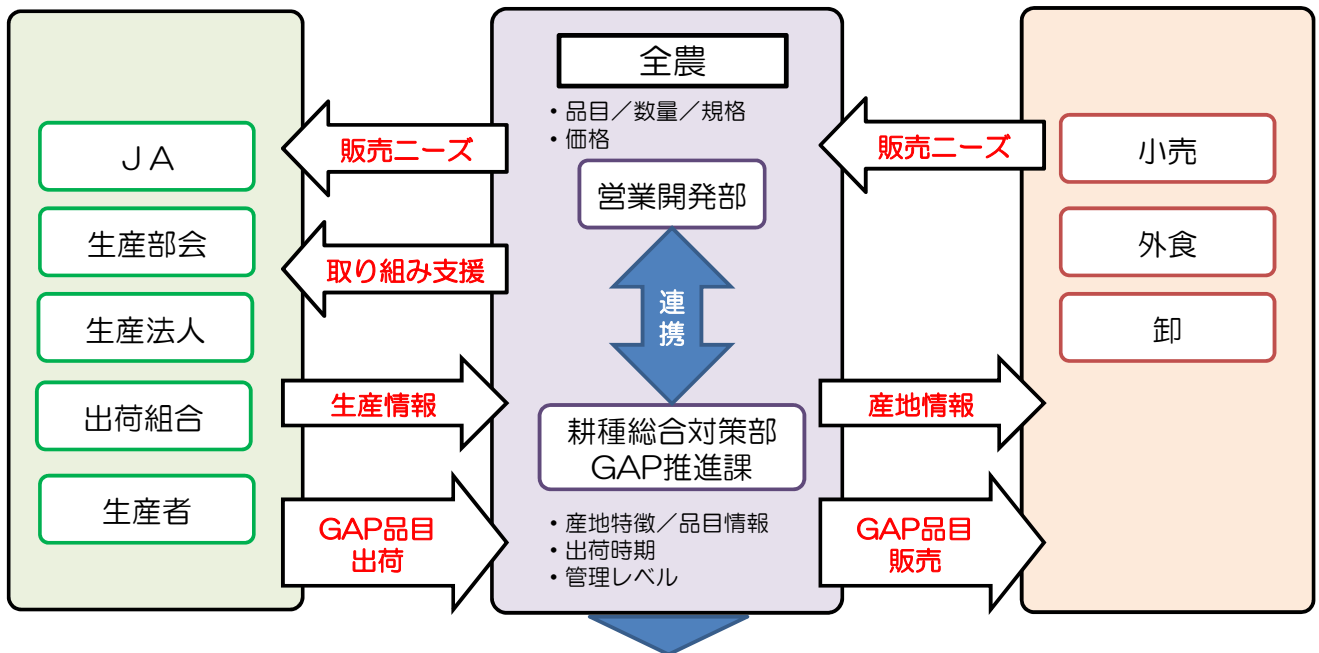


選ばれる産地として栽培技術向上だけでなく、GAPの取り組みが不可欠。

Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム

③. 実需者への供給（営業開発部の取り組み）

【生産サイド】 ← マッチング機能 → 【実需者サイド】



- 「信頼できる産地づくり」、「産地提案」による関係性を構築
- 情報活用（生産情報・実需者ニーズ）による魅力ある売り場づくり
- 成功事例を実需者・産地・全農で共有、生産振興・商品展開へ応用

Copyright©2019 JAグループGAP支援チーム